

第2回 山都町公立保育園のあり方検討委員会 概要

○会議概要

期日：令和5年7月13日（木）

時間：18：30～

場所：山都町役場本庁2-1会議室

出席者

委員 今吉委員長、檜林力委員、吉川委員、栗屋委員、江原委員、春日委員、
武元委員、檜林孔委員、後藤委員、本田委員、和田委員、飯星委員、滝口委員、
武原委員

オブザーバー 公立保育園長

事務局 山都町福祉課職員 ライフパシフィックデザイン熊本営業所（委託先）

○次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

- ・公立保育園の現状（詳細分析）について
- ・その他

4 閉会

○会議内容（概要）

町の公立保育園の現状についてデータに基づき報告（委託事業者）

【主な意見】

- ・園児数の少ない保育園が統廃合対象となっているようであるが、保育環境等に不満はなく、また保育を担う職員も頑張っている。今の保育園は大好きで子どもを預けている。また財源の問題もあるが、子どものために優先的に使ってほしい。
- ・来年度、年長が1名となり、園運営が切迫している。保護者には、数年前から運動会等小学校と合同で実施する旨、伝えてきた。ただし、園を残してほしいという声もある。
- ・保育園の統廃合は、非常に厳しい問題である。本町は面積も広いこともあり、保護者にとっては、利便性の面などから近くにあった方がよい。園をなくさないで欲しいという考えもわかるが、どこかで歩み寄らなければならない。送迎バスの運行など具体的な案を示していかなければならない。
- ・子どもが少なくなり、クラス編成が難しくなってきているので、学校の統廃合の議論も進んでいる。保育園も同じで集団保育も難しくなり、保育のニーズが多様化、新しい考え方、それぞれの保育ニーズに対応していくことが国の保育に関する考え方である。公立と私立の良さはそれぞれあるが、公立では特に保育士や調理師の確保が困難となっている。

またどの自治体も会計年度任用職員の採用を絞っている傾向である。

- ・令和2年度に策定した第2期子ども子育て支援事業計画の中に「保育園のあり方」について示されており、本計画に基づき今回の議論が進められている。
- ・少子化は保育園の責任ではない。統廃合しても対策がなければ少子化の歯止めにならない。誰のための統廃合なのか、子どもを中心に検討して欲しい。具体的な案を示して、山都町で子育てしたいと思えるような方向にしていきたい。
- ・本件は、待ったなしの話であると思う。子どもが少ないから統廃合は当たり前になってきており、駆け足で進めていかないといけないとどんどんまずい状況になっていく。
- ・預けている保育園には不満ありませんが、園で子どもの状態が急変した際の迎えに遠くてすぐにいけないなど心配もある。そのあたりのケアをしていただければと思う。
保育園の時に多くの友達を作ってもらい、小学校でも多くの友人がある状況が望ましい。
送迎など保護者の負担もあるが、子どものことを考えると子どもが多くの友人を作りたい。

【事務局】

次回の委員会では、公立保育園のあり方に関する議論を進めていく必要があることから、具体的な案を事務局から提示させていただきたいと考えている。